

キーパースンに聞く



超一流
(中日商業交流網)
代表取締役
張 智超氏

中国は再生資源の分野で古紙、金属、プラスチックが日本や欧米などから集まる世界最大の需要国になった。適正で安心できる取引が大前提だが、そのためには日本と中国との「人対人」の交流とネットワークが不可欠になる。日本の中部エリアを中心に、日本企業と中国企業との架け橋として各地を奔走する超一流(岐阜市、0508・255・3300)の張智超社長に話を聞いた。

相互理解が必要

年、中国へビジネス進出を目指す企業、すでに進出し事業展開されている企業を支援するために設立された。ただ、本格的に事業に取り組み始めたのは近年になってから

だ。

中国各地の市政府の働きかけもあって、中国進出を目指す企業は急増している。その事

前準備や販売戦略の作成、販売マネージメント、人材育成に悩んでいる企業は少なくない。中国へのプラスチックスクラップの輸出に盛んな国内需要に

一方、中国企業は、世界市場への進出と旺盛な国内需要に

プラリサイクルで日中協力を

ネットワーク構築へまい進

ために、世界中の再生資源を集荷して使っている。そのための西国の企業間のネットワークをつくることも、当社の事業の柱だ。

中国の存在なしにはもはや世界の資源循環が成り立たない状況だが、日本のプラスチックスクラップの発生元になるメーカーなどやりサイクル業者には

また壁があるように感じている。

中国各地の市政府の働きかけもあって、中国進出を目指す企業は急増している。その事

前準備や販売戦略の作成、販売マネージメント、人材育成に悩んでいる企業は少なくない。中国へのプラスチックスクラップの輸出に盛んな国内需要に

真のビジネスパートナーに

一方、中国企業は、世界市場への進出と旺盛な国内需要に

プラリサイクルで日中協力を

ネットワーク構築へまい進

ために、世界中の再生資源を集荷して使っている。そのための西国の企業間のネットワークをつくることも、当社の事業の柱だ。

中国の存在なしにはもはや世界の資源循環が成り立たない状況だが、日本のプラスチックスクラップの発生元になるメーカーなどやりサイクル業者には

日報アイ・ビー 10月の廃棄物セミナー

RPFの塩素除去と中国輸出への当局対応・今後の動向

～プラスチックリサイクルのビジネスが直面する2つの課題～

大手製紙メーカーがRPFの品質重視に動く中、2010年1月JIS規格が定められた。製品の質や安全性の向上が期待されるが、最も大きな課題はRPF原料に含まれる塩素除去だ。一方、中国へのプラスチックスクラップの輸出・マテリアルリサイクルでは、中国政府の内需拡大政策と輸入でのパールの扱いなどが注目されている。日中政府の動きと輸出マテリアルリサイクルにおける日本との国交のあり方の今後を占う。

演題と講師

も徐々に理解してくれ張 2005年から日中企業、政府関係者の交流を目的に「China Replus (中国塑料回收再生大会)」が開かれている。昨年日本は約30社を含めて世界中から約4000人の企業、関係者が集まった。当社も共催者としてこの大会に携わった。今年は11月4、5日に寧波市で開催される。日本企業にもぜひ参加して、交流を深めたい。交流とは具体的にどのようなものか。(おわり)